

自ら**学ぶ力**をはぐくむ**豊かな心**をはぐくむ**健康な体**をはぐくむ**郷土愛**をはぐくむ

# 県北プライド



「夢をかなえる教育」「笑顔あふれる学校」をめざして

校長 阿部 央

## 令和2年度 第71回卒業証書授与式 校長式辞

3月12日（金）、春の気配を感じる天候の中、71名の子どもたちが本校を巣立っていきました。コロナ禍の中、規模を縮小しての卒業式とはなりましたが、義務教育の締めくくりにふさわしい凛々しい姿を見せてくれました。

式辞では、次のような話をしました。

1月、2月は冷え込みの厳しい日が続きました。3月に入り少しずつ温かさが増し、校舎周辺の木々の芽も膨らみ始めました。今年も間もなく春がやってきます。

本来であれば、ご来賓の方々、在校生も一堂に会して、皆さんの門出を学校をあげてお祝いするはずの第71回卒業証書授与式が、昨年度に引き続き規模を縮小し、時間を短縮する形で開催せざるを得ませんでした。

卒業生と保護者の皆さまの心中を思うと、とても心苦しい判断でした。

はじめに、本日ご臨席いただいておりますが、本校教育の充実・発展のために、多大なるご支援・ご助言をいただいてまいりました国見町当局、国見町教育委員会の皆さま、地域の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

昨日は3月11日、東日本大震災からちょうど10年という節目の日でありました。あの日も中学校の卒業式でした。震災から3年後、私は広野町にある広野中学校の体育館で、卒業式に臨んでいました。原子力発電所事故の直後に避難先の中学校に入学し、波乱に満ちた3年間を送ってきた子どもたちでした。

義務教育最終年度を新型コロナウイルス感染症に翻弄され続け、今日こうして卒業していく皆さんの姿が、なぜか当時の生徒たちと重なります。楽しみにしていた修学旅行にも、3年間の練習の成果を発揮するはずだった、中体連総合大会や各種のコンクールにも参加させてあげることができませんでした。しかし、皆さんは不満を口にしたり態度に表したりすることなく、しっかりと前を向いて生活していました。そんな皆さんのひたむきな姿に私はとても救われたような気がしています。

もちろん、時には感情を抑えきれず物にあたり、人にあたりしてしまったこと、つい調子に乗りすぎてやってはいけないことをやってしまったこと、学校へ行きづらく苦しんだこと、悔しい思いやつらい思いもたくさんあったと思います。

私は皆さんとわずか1年間しか一緒ではありませんでした。でも何度か皆さんに私の思いを伝えてきたつもりです。各学級2回ずつ道徳の授業をさせていただきました。

「真理を探究するために大切なことは何か」

「挑戦し続けることが自分にもたらすものは何か」

を、一緒に考えました。

集会や学校だよりでは、皆さんにプライドを持った県北中学校の生徒になってほしいという思いを伝えてきました。

逆に、皆さんは柏葉祭の合唱コンクールをはじめ、様々な活動を通して私に素晴らしいメッセージを送ってくれました。

「ほらね 僕らは一人じゃない きっとね誰も一人じゃない それでも悲しい日があったら



ゆっくりそっと歌おう 思いで詰まったあの歌を」

「友 さようならそしてありがとう 再び会えるその時まで 友 僕たちが見上げる空  
は どこまでも続き輝いている 同じ空の下 どこかで僕たちは繋がっている」

「あの日見た夕日 あの日見た花火 いつでも君がいたね あたりまえが幸せと知った」

3年間の様々な出来事を通して、学級、そして学年の仲間としての繋がりがより確かなものになり、その中で一人一人が成長してきたのです。

学年日より「コンチェルト」は、皆さんが入学した平成30年4月6日に第1号が発行されています。そこには「かけがえのないたった一人の自分、輝く未来を創造してほしい。自分らしく、明るく、生き生きと、素敵な3年間を過ごそう。」という学年主任三浦先生からのメッセージがあります。

皆さんの自分らしく、明るく、生き生きと学校生活を送る後姿が、後輩のお手本となっていました。すてきな最上級生でした。



先ほど、卒業証書をお渡ししました。そっと開いてみてください。

一番右側に「卒業証書」と書いてあります。あなたが中学校を間違いなく卒業したという証です。

あなたの名前が書いてあります。世界でたった一つのあなただけの卒業証書です。名前はあなたにとって世界で一番素敵な言葉です。あなたが生まれてくる前に、数多くの候補の中からただ一つ選ばれたものです。

先程、担任の先生から呼名され、大きな声で返事をして、今、手にしている卒業証書を受け取りました。生まれてから今日までの15年間、数えきれないほど呼ばれてきた名前です。あなたは、そのすてきな名前を通して多くの人とつながっています。

あなたの誕生日が書いてあります。その日は穏やかな日だったのでしょうか。暑い日だったのでしょうか。それとも雪の降る寒い日だったのでしょうか。たとえどんな日であろうと、あなたの家族が何よりも楽しみに待ち続けた日です。あなたの誕生をみんなで喜びあった記念の日です。

まん中に大きな字で、「中学校の課程を修了したことを証する」と書いてあります。9年間の義務教育が修了したということです。社会に出ても、自分の力でたくましく生きていける力を身に付けたということを証明したものです。

そして 今日の日付が書いてあります。義務教育の修了が証明された、大きな節目となる日付です。この人生の節目となる今日まで、あなたは誰にどれだけのことをしてもらってきたでしょうか。

体調を崩して寝込んでしまった時、心配して看病をしてくれたり、病院に連れて行ってくれたのは誰ですか。

来る日も来る日もあたり前にご飯を作ってくれたのは誰ですか。

小学校や中学校の入学式のために、制服やランドセル、カバンを買いそろえてくれたのは誰ですか。

雨の日や雪の日に、学校まで送り迎えをしてくれたのは誰ですか。

お弁当を忘れたからと、そっと届けてくれたのは誰ですか。

そっと後ろを振り向いてみてください。あなたの一番身近なところに、あなたの一番の応援

者がいるのです。  
姿勢を戻してください。

あなたをいつも応援してくれている大切な人たちに、今日まで、あなたはどれだけのことをしてあげましたか。

学級担任としてはじめて卒業生を送り出した時、一人の母親が話していたことを今でも覚えています。

「無事に生まれてきてくれたことが何よりの親孝行です。」と、でも、本当にそれだけでよいのでしょうか。

今日の日付の左側に私の役職と名前が書いてあります。県北中学校の教職員を代表して、私が責任をもって、あなたの卒業を証明しました。



そして、最後に番号が記入されています。あなただけの番号です。県北中学校第1回卒業生から途切れることなく続いている番号です。今年の卒業生の最後の番号は第13103号です。

今年で卒業生が13103人になりました。県北中の伝統を築き、支えてくれている人がこんなにたくさんいるということです。あなたもその一人になりました。これからは、県北中学校の応援者として力を貸してください。

卒業証書を閉じてください。

皆さんが生きていくこれからの社会は、増々、予測困難な社会になると言われています。前例のない困難に直面しても、互いに知恵を出し合い、考え方や価値観の違いを認め合いながら、協働してその時々最適解を見つけていくことが大切になってきます。新型コロナウイルス感染症はまさに前例のないことです。緊急事態宣言、全国一斉の学校臨時休業も前例のないことでした。様々な課題を一つ一つ乗り越えながら、中学校生活最終日を迎えました。

卒業証書に記された「中学校の課程を修了したことを証する」という17文字に込められた思いが、私からあなたへの最後のメッセージです。

保護者の皆さま、お子さまのご卒業、誠におめでとうございませう。子どもたちは心配をかけながらも着実に成長しております。今後とも、お子さまの自立への援助を惜しみなく注がれますようお願い申し上げます。また、この3年間、PTA活動をはじめ、諸行事、諸活動に対し、ご理解・ご協力をいただきましたことに深く感謝いたします。

4月からは、あなたをさらに高めてくれるステージが待っています。巣立ち行くあなたの前途に期待と想いを馳せながら、式辞といたします。

令和3年3月12日  
福島県伊達郡国見町立県北中学校長 阿部 央